

現代教養学科で学ぶ人のために

1. 現代教養学科教育のめざすもの

現代教養学科は、「現代を創造的に生き抜く英知」を育てる学科です。

現代社会の急激な変化にも柔軟かつ的確に対応できる力を培うために、現代社会人として求められる学問の基礎を身に付け、社会が直面するさまざまな課題や問題点を解決するための専門的教養を養い、豊かな人間形成をめざすのが現代教養学科です。

現代教養学科で2年間しっかり学んで、幅広い分野にわたる知識や情報を身に付け、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力、問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に目的に向かって着実に努力を続けられる行動力、他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身に付け、それらに基づいてより良い人間関係を築いていけるコミュニケーション力をきちんと修得して下さい。

2. 現代教養学科の特色

A. 豊富な学科科目

現代教養学科の特色は、まずその豊富な学科科目（基礎教養科目、専門教養科目など）にあります。これらの科目を幅広く学ぶことによって、さまざまな角度から人間を捉えていくための、多様な学問分野の基本的な知識や考え方などを学ぶことができ、より広い視野に立って物事を考えていく力が身に付きます。

なお、現代社会にマッチした専門的教養をより明確にするために、また卒業後の進路選択や資格取得を見据えて履修の方向性を明確にするために、「心理」、「人間文化」、「健康と福祉」、「医療」、「ビジネス」、「キャリア」、「情報処理」、「アジア」、「国際」、「外国語」、「メディア表現」、「食と環境」の計12の領域に関する科目を用意しています。これらは大きく変貌しつつある現代社会で力強く生き抜くために身に付けなければならない重要な知識や情報を学ぶためのキーワードでもあります。

また、履修科目を具体的に選択する際の参考として、自分の関心や興味に基づいて自由に専門教養科目を選択できるマイプランの他、皆さんが自らの目標、進路先を見据えて選択できるヒューマンケア、ビジネスマネジメント、グローバルメディアの計4つの履修モデルを用意しています。

B. 充実したキャリア関連科目

基礎教養科目の「キャリアデザインⅠ」や「キャリアデザインⅡ」では、皆さんが「働いて生きる人生」そのものを自分で選択し切り拓いていく力を身に付けるために、社会を知り自分を知るために必要な知識や技能を養い、社会と接点を持つ様々な企画や講演会、各種就職活動対策講座を通して、皆さんの「キャリアアップ」をサポートします。

専門教養科目のビジネスマネジメントの履修モデルには、積極的に自分の将来を切り拓くために必要

な科目、とりわけ「現代社会において女性が生き生きと働くため」に必要と思われる科目を多く設定しています。これらは、「働くこと」を通して自分を見つめ社会について考える力を養うと同時に、実社会に出た時に役立つ準備のための実践的な技術を磨くこともできるものです。

なお、専門教養科目では、幅広く知識・情報を得るための講義系科目の他、実践的な技能・技術や資格を取得し学外研修体験を行う実技・資格・研修系科目を設けています。

まず、資格取得や検定受験対策を目指した科目としては、「色彩学」、「接客の心理」、「医療実務」、「簿記」、「IT パスポート入門」などを開設しています。

また、夏季や春季の長期休暇期間に1～2週間程度、実際に企業やNPO法人で実務を体験する「企業インターンシップ」、「ホテルインターンシップ」、「病院インターンシップ」や「NPOインターンシップ」の学外研修体験を行う科目も開設しています。なお、「企業インターンシップ」、「病院インターンシップ」では研修期間に応じて1週間型（S）と2週間型（L）があります。

一方、自主研修科目として、皆さんが自ら企画し様々な体験を自由に行う「国内研修」と「海外研修」を開設しています。

また、職業教育の分野で大きな成果をあげている学校法人電波学園と連携して、資格取得・検定試験対策実践講座など、卒業後の進路選択や実社会に出て働く上で役立つ教養講座を設けています（注意：これについてはいずれも有料になります）。

これらの幅広いキャリア関連科目を積極的に学び、多くの講座にチャレンジしながら、自分の可能性を自分の力で切り拓いていきましょう。

C. 自由な科目選択

現代教養学科の特色は、その履修方法にもあります。多様な専門教養科目の中から2年間に何をどのように学んでいくのかは、一人ひとりの問題意識や目標、進路希望によって決めていくことができます。もちろん一定のルールや必修科目（基礎教養科目）はありますが、自由な選択の幅がこれほどある学科は他にあまり例を見ないと思われます。

真の人間教育とは一つの型にはまったものではなく、それぞれの個性を大切にし、それぞれの問題意識に基づいた自主的な学習の積み重ねの上になされることを、履修システムの上でも保証するものです。

D. 少人数教育

現代教養学科の教育は、一人ひとりの持つ関心を少人数教育の場である「教養演習」（ゼミ）で学問的なレベルにまで育てていきます。

「ゼミ」は1人の教員と10名前後の学生で構成されます。1年次には共通のテーマのもと、他人の話を聞き、調べ、討論し、自分のこれからの生き方を考えます。2年次には各自の関心に沿って卒業研究を準備していく中で、1年次に身に付けた「学び」の方法をさらに磨き、深め、発展させていきます。

こうしてともに学び、また大学祭等のイベント準備もゼミ単位で行うことから、ゼミは教員や友人とのグループ活動を通じた人間形成の場ともなるのです。高校での教育にはなかったゼミという場の中で、新しい自分を見出し、学び、意見交換することの楽しさを知って下さい。

E. 卒業研究

2年次には自分が関心のある分野からゼミを選択し、自分が考えたいテーマについて1年間かけて資料収集及び分析・考察を進め、担当ゼミ教員のもとで卒業研究レポートを完成させます。このレポートは、皆さんにとってこれまでの「学習の総決算」でもあり、学んできたことをいかにまとめるかという総合的な力を試すものになります。

F. きめ細やかな外国語教育

国際化の時代と言われる現代において、外国語は教養の基礎でもあります。コミュニケーションの手段としてはもちろんのこと、異なった文化や社会を理解し、世界の人々とともに生きていく視点を持つためにも、外国語力は今後ますます欠かせないものになるでしょう。

専門教養科目の中には、英語、フランス語、中国語の他、日本の隣国の韓国の言語と文化を学ぶ科目を設けています。

皆さんが選択した履修モデルに関わらず、外国語科目を履修することを期待しています。

3. 現代教養学科のカリキュラム

『現代教養学科教育課程表』をご覧ください。ここには、現代教養学科の全ての授業科目が単位数や学年配当などとともに掲載しています。表中では、「基礎教養」、「専門教養」、「自主研修」の科目群の他、職業教養講座、他学科開放指定の科目が記載されています。短期大学としては驚くほど多い現代教養学科の学科科目がこれらの科目群に区分されています。

基礎教養科目群

この科目群に分類されている科目はどれも現代教養学科の中核となる大切な科目で、必ず履修して単位を取得しなければならない必修科目です。短期大学で学ぶための基礎を身に付け、自ら考え、発表する場を用意し、そこで得たものをまとめる力を養います。また「ゼミ」は教員や友人との学問的・人間的な交流ステーションとなるものです。

「キャリアデザインⅠ」短期インターンシップや企業研究・業界研究など社会と接点を持つ企画や講演会等を通して、「働くこと」や「仕事」について具体的に学びます。また、人生設計も視野に入れながら、まずは社会に出る最初の一步、就職活動への準備をしていきます。

「キャリアデザインⅡ」自分の将来を考える上で参考となる講演やシンポジウムへ参加する他、専任教員によって展開される講義に出席し、「現代をどのように生きるべきか」を学びます。

「教養演習Ⅰ」1年次に少人数で行われるゼミナール形式の演習（「ゼミ」）です。大学での学び方、学生生活の過ごし方を考えたり、自分の生き方を含めた進路についても学んでいきます。

「教養演習Ⅱ」各自が関心を持つ主題のゼミを選び、そのゼミで学んでいきます。

なお、1年次、2年次いずれのゼミでも、「自ら学ぶ力」やそのために必要な「学び方」を身に付ける場であり、教員や友人たちとの人間的な交流を図る場であり、かつ実社会に出てからいろいろな価値観を持ち年齢も異なる周りの人々と一緒にしっかり仕事をしていくための準備をする場でもあります。

「日本語表現ⅠA」 日本語で話し、書くための技術を身に付けることはお互いを理解するための第一歩です。そのために、基本的な日本語のコミュニケーション能力を身に付けることを目標とします。

「日本語表現ⅠB」 社会人として自己アピールをしたり、プレゼンテーションをしたりすることができるように、基本的な日本語能力の上にさらに高度で効果的な情報伝達能力を身に付けることを目標とします。

「コンピューター基礎演習」 現代の情報化社会で生きていくために欠かせないパソコンの基本操作やWord、Excelなどのソフトの基本操作について学びます。

「プレゼンテーション演習」「人前で話をする」という基本的な自己表現力を高めることを目標として、そのために必要なメディアやツールの活用方法を学びます。

「卒業研究」 2年次に1年間かけて行います。自分が興味を持つ事柄について資料を集め、自分の考えを織り込みながらレポートをまとめて提出します。それまで身に付けた「自ら学ぶ力」や「学び方」を総動員して担当のゼミ教員の指導のもとにレポートを作成します。書き上げた瞬間、これまで感じたことのないような充実感に包まれるとともに、真の意味での短期大学の「卒業」を実感できると思います。

専門教養科目群

「心理」、「人間文化」、「健康と福祉」、「医療」、「ビジネス」、「キャリア」、「情報処理」、「アジア」、「国際」、「外国語」、「メディア表現」、「食と環境」の計12領域からなる科目群を用意しています。

これらは全て、大きく変貌しつつある現代社会で力強く生き抜くために身に付けなければならない重要な知識や情報を学ぶためのキーワードです。

これらの専門教養科目群には、幅広く知識・情報を得るための講義系科目と、実践的な技能・技術や資格を取得し学外研修体験を行う実技・資格・研修系科目を設定しています。

皆さんは自らが社会でいかに生きていくか、働いていくかを考えて、その目標、進路先を見据えて履修モデルを選択することができます。

まず、自分の関心や興味に基づいて自由に専門教養科目を選択できるマイプランの履修モデルでは、12の領域から選択した4つの領域についてそれぞれ4単位以上（計16単位以上）を履修しなければなりません。また、ヒューマンケア、ビジネスマネジメント、グローバルメディアの各履修モデルでは、それぞれを形成している4つの領域のいずれから4単位以上（計16単位以上）を履修しなければなりません。

それでは、ヒューマンケア、ビジネスマネジメント、グローバルメディアの各履修モデルとその領域科目群について以下に説明します。

ヒューマンケア

人間のこころと身体を理解するための力を身に付けるための履修モデルです。

「心理」、「人間文化」、「健康と福祉」、「医療」の4つの領域からなっています。

主な進路先は、医療事務、介護、福祉、ブライダル、サービス業等が想定されます。

- | | |
|---------|---|
| 「心理」 | 組織や集団に属する人間の心理や人間関係について理論的かつ具体的に学び、行動の指針や良い対人関係の取り方などを探る科目を開設しています。 |
| 「人間文化」 | 人間と社会の関係のあり方を考える上で大切な、人間そのものの知性と能力の働きに関する基礎力を身に付けるための科目を開設しています。 |
| 「健康と福祉」 | 現代の少子高齢化社会における健康と福祉の問題点について学び、その実践体験を通じて、社会に働きかけのできる人材の育成を目指すための科目を開設しています。 |
| 「医療」 | 生活に密着した生命、医療に関する諸問題を解決し、実践できる人材を育成するための科目を開設しています。 |

ビジネスマネジメント

現代ビジネスの世界を知り、仕事力を身に付けるための履修モデルです。

「ビジネス」、「キャリア」、「情報処理」、「アジア」の4つの領域からなっています。

主な進路先は、メーカー、金融、販売、商社、公務員等が想定されます。

- | | |
|--------|--|
| 「ビジネス」 | 現代の企業のあり方やその経営の仕組みを学ぶとともに、社会に出て働く意義を見つけるために役立つ科目を開設しています。 |
| 「キャリア」 | 現代社会で女性が生き生きと働くために役立つ科目や、ライフステージごとの生活のあり方を学ぶ科目を開設しています。 |
| 「情報処理」 | 現代の情報化社会でしっかり生き抜くための実践的なコンピューターに関する知識や情報を総合的に学ぶ科目を開設しています。 |
| 「アジア」 | 21世紀の世界をリードするであろうアジア全体について学ぶとともに、日本を取り巻く近隣諸国との関係を深めるために必要な言語と文化を学ぶための科目を開設しています。 |

グローバルメディア

世界に通じる自己表現力とコミュニケーション力を身に付けるための履修モデルです。

「国際」、「外国語」、「メディア表現」、「食と環境」の4つの領域からなっています。

主な進路先は、IT系、広告、観光、ホテル、旅行、食品等が想定されます。

- | | |
|-------|--|
| 「国際」 | 国際的観点から政治・経済の仕組みや実態を学び、また外国の地域文化やそれを支える人々の暮らしについて学ぶ科目を開設しています。 |
| 「外国語」 | 国際言語の中心である英語とフランス語について、単にその言語だけでなくその文化についても学べる科目を開設しています。 |

「メディア表現」 現代社会におけるインターネットなどを用いたコミュニケーション力や自己表現力を高めるために学ぶ科目を開設しています。

「食と環境」 自然と人間の関係、地球環境についての諸問題を解決するための情報等の他、食生活に関する科目を開設しています。

自主研修科目群

「国内研修」 「海外研修」 国内の知らない土地で新しい体験をしたり、外国で語学を学びながら異文化の中で生活したりすることを通して、自分自身の生きる力を試します。積極的に多くの人々と交流しながら、自ら自分の人間的な可能性を切り拓くために必要な貴重な知識や技能、経験を得ることをサポートする科目です。なお、「国内研修」、「海外研修」それぞれ2単位まで卒業要件単位に含めることができます。

その他

「職業教養講座」 社会で役立つ資格の取得や検定受験のために、学校法人電波学園と提携していくつかの科目を開設しています。そして、その取得単位を8単位まで「職業教養講座」として卒業要件単位に含めることができます。基本的に学外の専門学校に通学することなく、将来役に立つ職業的な技能の修得も学内でできることになります。因みに、いずれの講座も有料となります。

「他学科開放指定科目」 同じ名古屋短期大学の他学科（保育科、英語コミュニケーション学科）が開設している授業科目を受講して単位を6単位まで修得して卒業要件単位に含めることができます。

現代教養学科のカリキュラムは、学生個人の知的な関心と自主性を最大限に尊重し、なおかつ現代社会をテーマにして、現代を女性が積極的に生きるために必要な教養を基本的に自由に、しかも将来の進路を見据えて集中的に学べるように工夫しています。

あとは、皆さんの意欲次第です。短期大学生活は、2年間という本当に短い期間です。その間にできるだけたくさんの科目を履修して幅広く学んで、これまでと違う、新しくて深みのある積極的に生きる皆さん自身を創りあげていきましょう。

名古屋短期大学 現代教養学科 履修系統図

		1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
基礎教養科目群 (必修科目目群)		キャリアデザインⅠ 教養演習Ⅰ 日本語表現A → 日本語表現B コンピューター基礎演習 → プレゼンテーション演習		キャリアデザインⅡ 教養演習Ⅱ 卒業研究	
	ヒューマンケア	心理	コミュニケーションの心理 接客の心理 色彩学	若者の心理 社会心理学	
		人間文化	自己の探究 社会とスポーツ 現代の文化	日本の文学 芸術の世界	
		健康と福祉	スポーツ&エクササイズA ボランティア論 ホームヘルパー実習 NPOインターンシップ スポーツ&エクササイズB 人間と健康 (NPOインターンシップ)	福祉スポーツ 現代の福祉 (NPOインターンシップ) (NPOインターンシップ)	
		医療	医療実務 病院インターンシップS 病院インターンシップL カウンセリング入門 (病院インターンシップS) (病院インターンシップL)	生活と医療 いのちの科学 (病院インターンシップS) (病院インターンシップL)	
専門教養科目群 (選択科目目群)	ビジネスマネジメント	ビジネス	社会と経済 企業インターンシップS 企業インターンシップL 現代の経営 (企業インターンシップS) (企業インターンシップL) マーケティング	女性と労働 (企業インターンシップS) (企業インターンシップL) 企業と会計 (企業インターンシップS) (企業インターンシップL)	
		キャリア	ジェンダーと法 オフィススタディ 簿記 秘書概論	事務管理 秘書実務 生活経営	
		情報処理	コンピューター・ネットワーク Excel演習 ITパスポート入門	データベース演習 Excelプログラミング 応用Excelプログラミング	
		アジア	韓国語と韓国文化Ⅰ 中国語と中国文化Ⅰ アジアの歴史	韓国語と韓国文化Ⅱ 中国語と中国文化Ⅱ アジアの社会と文化	
	グローバルメディア	国際	国際経済論 ホテルインターンシップ (ホテルインターンシップ)	国際社会と日本 地域文化研究 (ホテルインターンシップ) (ホテルインターンシップ) 観光と地理	
		外国語	フランス語とフランス文化ⅠA → フランス語とフランス文化ⅠB 英語と英米文化ⅠA 英会話ⅠA 英語能力検定 フランス語とフランス文化Ⅱ 英語と英米文化ⅠB 英会話ⅠB (英語能力検定)	フランス語とフランス文化Ⅱ 英語と英米文化ⅡA 英会話ⅡA (英語能力検定) 英語と英米文化ⅡB 英会話ⅡB (英語能力検定)	
		メディア表現	身体と表現 映像メディアの世界	ウェブ・コミュニケーション ウェブデザイン デジタル・デザイン	
		食と環境	食の科学 自然と生活 環境の科学	フードデザイン エコライフ実習	
	(上記の3つの履修モデルを選択する場合、4つの領域から、それぞれ4単位以上を取得すること)				
	マイプラン (上記の12の領域から4つを選択し、それぞれ4単位以上取得すること)				
学外研修		国内研修 海外研修	(国内研修) (海外研修)	(国内研修) (海外研修)	(国内研修) (海外研修)
職業教養講座					
他学科開放指定科目					

専攻科保育専攻教育課程表

2015年度入学者適用

学位審査基準 の要件		開講科目	単位	学年配当				必修	選択	修了要件 単位
				1 年		2 年				
				前	後	前	後			
関連科目	基礎科目	文 学	2				○		2	
		学 ぶ こ と と 現 代	2			○			2	
		現 代 社 会 と 女 性	2		○				2	
		女 性 と 労 働	2				○		2	
専攻外科目		環 境 の 科 学	2		○				2	
		脳 神 経 科 学	2		○				2	
		専 攻 科 基 礎 演 習	4	○	○			4		
		海 外 英 語 研 修	4	○					4	
		小 計	16					4	12	
専門科目	保育 研究法	保 育 研 究 法 I	2	○	○			2		2
		保 育 研 究 法 II	2	○	○			2		2
関連科目	保育 特 論	障 害 児 保 育 特 論	2			○			2	16
専門科目		児 童 福 祉 特 論	2	○					2	
		教 育 行 政 特 論	2	○					2	
専攻外科目		教 育 方 法 特 論	2		○				2	
		食 環 境 論	2	○					2	
専門科目		発 達 心 理 学 特 論	2				○		2	
		子 育 て 支 援 論	2	○					2	
		教 育 課 程 編 成 論	2				○		2	
		特 別 保 育 論 I	2				○		2	
			特 別 保 育 論 II	2				○		
専攻外科目		海 外 保 育 研 修	6	○	○				6	
専門科目	保育 特 演	保 育 内 容 特 演 I	2		○				2	10
		保 育 内 容 特 演 II	2			○			2	
		保 育 講 読 演 習	2				○		2	
		音 楽 演 習	2		○				2	
		図 画 工 作 演 習	2			○			2	
		幼 児 体 育 演 習	2				○		2	
		情 報 処 理 演 習	2			○			2	
専門科目	保育特別実習	子 育 て 支 援 実 践	2		○				2	8
		保 育 特 別 実 習	6	○	○			6		
	学修総まとめ科目	保育特別研究	保 育 特 別 実 習 指 導	2	○				2	
			保 育 特 別 研 究 I	4	○	○			4	
		保 育 特 別 研 究 II	4			○	○	4		8
		小 計	62					20	42	
		合 計 単 位 数	78					24	54	46

<学位(教育学)審査基準の要件>

①専門科目(学修総まとめ科目を含む)31単位以上

②専門科目(学修総まとめ科目を除く)＋関連科目40単位以上

③認定専攻科で修得した全ての科目【専門科目＋関連科目＋専攻科外科目＋学修総まとめ科目】62単位以上

④本科及び認定専攻科で修得した単位:専門科目(学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む)＋関連科目〔≥62単位〕

⑤本科及び認定専攻科で修得した単位:専門科目以外〔≥24単位〕

⑥本科及び認定専攻科で修得した単位:外国語の単位〔必ず含む〕

専攻科保育専攻教育課程表

2016年度入学者適用

学位審査基準 の要件		開講科目	単位	学年配当				必修	選択	修了要件 単位
				1 年		2 年				
				前	後	前	後			
関連科目	基礎科目	文 学	2			○			2	
		学 ぶ こ と と 現 代	2			○			2	
		現 代 社 会 と 女 性	2		○				2	
		女 性 と 労 働	2				○		2	
専攻外科目		環 境 の 科 学	2		○				2	
		脳 神 経 科 学	2		○				2	
		専 攻 科 基 礎 演 習	4	○	○			4		
		海 外 英 語 研 修	4	○					4	
		小 計	16					4	16	
専門科目	保 育 研究法	保 育 研 究 法 I	2	○	○			2		2
		保 育 研 究 法 II	2	○	○			2		2
関連科目	保 育 特 論	障 害 児 保 育 特 論	2			○			2	16
児 童 福 祉 特 論		2	○					2		
教 育 行 政 特 論		2	○					2		
教 育 方 法 特 論		2		○				2		
専攻外科目		食 環 境 論	2	○					2	
		発 達 心 理 学 特 論	2				○		2	
		子 育 て 支 援 論	2	○					2	
		教 育 課 程 編 成 論	2				○		2	
専門科目	特 別 保 育 論 I	2				○		2		
	特 別 保 育 論 II	2					○	2		
専攻外科目		海 外 保 育 研 修	6	○	○				6	
専門科目	保 育 特 演	保 育 内 容 特 演 I	2		○				2	10
		保 育 内 容 特 演 II	2				○		2	
		保 育 講 読 演 習	2					○	2	
		音 楽 演 習	2		○				2	
		図 画 工 作 演 習	2				○		2	
		幼 児 体 育 演 習	2				○		2	
		情 報 処 理 演 習	2					○	2	
関連科目		子 育 て 支 援 実 践	2		○				2	
専門科目	保育特別実習	保 育 特 別 実 習	6	○	○			6		8
		保 育 特 別 実 習 指 導	2	○				2		
	保育特別研究	保 育 特 別 研 究 I	4	○	○			4		8
保 育 特 別 研 究 II		4				○	○	4		
学修総まとめ 科目		小 計	62					20	42	
		合 計 単 位 数	78					24	58	46

＜学位(教育学)審査基準の要件＞

- ①専門科目(学修総まとめ科目を含む)31単位以上
- ②専門科目(学修総まとめ科目を除く)＋関連科目40単位以上
- ③認定専攻科で修得した全ての科目【専門科目＋関連科目＋専攻科外科目＋学修総まとめ科目】62単位以上
- ④本科及び認定専攻科で修得した単位:専門科目(学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む)＋関連科目〔≧62単位〕
- ⑤本科及び認定専攻科で修得した単位:専門科目以外〔≧24単位〕
- ⑥本科及び認定専攻科で修得した単位:外国語の単位〔必ず含む〕

専攻科保育専攻

専攻科保育専攻のカリキュラム

学位授与機構認定専攻科として、保育者養成の今日的課題である保育サービスの多様化と高度化に対応し、教育学士の学位及び幼稚園教諭1種免許状・オーストラリア保育士資格（CertificateⅢ）の取得ができるよう配慮しつつ、時代の要請に応えるカリキュラムとして、次のような特色を持たせています。

① 自律的研究心の育成

時代の変化に対応して、保育者は不断に学習していく資質が求められています。そして自らの努力で、主体的に保育者としての力量を開発していくことが望まれます。本学のカリキュラムは、こうした1人ひとりの主体的な学習や研究を援助しうよう構造化がはかられています。少人数教育や演習科目の比重を高め、「保育研究法Ⅰ、Ⅱ」をはじめ「保育特別実習」「保育特別研究Ⅰ、Ⅱ」などの科目を有機的に関連づけて配置したことからもそのことは具体化されています。

② 理論と実践の統一

「保育学」は、極めて実践的な学問であり、保育現場で実際に行われている様々な実践から多くのことを学ばなければなりません。その意味で、ほぼ1年間を通して展開される「保育特別実習」は本学専攻科固有の特色ある授業科目といえます。さらに「保育研究法Ⅰ、Ⅱ」や専攻科のそれぞれの授業科目において、学生が実習で得た様々な経験を対象化して、それを多面的に検討するなかで保育の学習はさらに深まっていきます。加えて「子育て相談室」の諸活動に関わることで理論を実践に結びつける経験を積むことができます。

③ 学習の深化と総合化の保障

「保育内容特演Ⅰ、Ⅱ」では保育の個々の課題について問題別、分野別により深く学ぶことが保障されています。「保育特別研究Ⅰ、Ⅱ」は、学生の問題意識、関心に則して、専攻科での学習を総合化することが課題とされ、担当教員による個別的な指導を系統的に受けることが出来ます。

④ 保育分野における今日的課題への対応

「子育て支援論」、「特別保育論Ⅰ、Ⅱ」や「発達心理学特論」などの保育の今日的課題に応える科目を開講しています。これは、保育や子ども達を取り巻く社会的環境が大きく変わろうとしている現在の保育情勢にいち早く対応し、将来の保育に対する認識を深めるためのものです。

⑤ 教育学士と幼稚園教諭1種免許状・オーストラリア保育士資格の取得

専攻科のカリキュラムでは、1年次に集中的に授業科目を配置し、2年次には「保育特別研究Ⅱ」への専念と、学位授与機構から教育学士の学位授与を得るために必要な授業科目について、履修が可能となるように授業科目の学年配当に十分な配慮がされています。また、オーストラリアにおける留学タイプにおいてはオーストラリアの保育士免許（CertificateⅢ）の取得もでき国際的な保育士の養成を目指しています。

専攻科英語専攻教育課程表

2015年度入学者適用

区 分	授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	修 了 要 件	学 年 配 当			
						1 年		2 年	
						前 期	後 期	前 期	後 期
英 語 専 門 科 目	英語研究法	4	4		4	○	○		
	英語学特論	2		2	10	○			
	英語音声学特論	2		2			○		
	日英対照言語学	4		4		○	○		
	アメリカ文学特論	2		2			○		
	イギリス文学特論	2		2			○		
	語用論と外国語学習	2		2			○		
	Advanced Reading I	2	2		8	○	○		
	Advanced Reading II	2	2					○	○
	Writing & Presentation I	2	2			○	○		
	Writing & Presentation II	2	2					○	○
	Advanced English Practicum I	2	2		8	○			
	Advanced English Practicum II	2	2				○		
	Advanced English Practicum III	2	2					○	
	Advanced English Practicum IV	2	2						○
	英語特別実習	6		6	10			○	○
	海外英語研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	英語特別研究 I	4	4			○	○		
	英語特別研究 II	6	6					○	○
英 語 関 連 科 目	ジェンダー研究特論	2		2	4		○		
	国際関係特論	4		4				○	○
	地域研究特論 I	2		2		○			
	地域研究特論 II	2		2		○			
	地域研究特論 III	2		2			○		
	地域研究特論 IV	2		2				○	
	地域研究特論 V	2		2				○	
	応用言語学	2		2		○			
	教育方法特論	2		2			○		
	初等英語教育特論	2		2		○			
	初等英語教材研究特論	2		2					○
	日本文学特論	2		2		○			
	日本史特論	2		2		○			
	国際ボランティア論	2		2		○			
	NGO・NPO論	2		2			○		
	インターンシップ S	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	インターンシップ L	2		2		○	(○)	(○)	(○)
総 計 単 位 数		87	30	57	44				

専攻科英語専攻教育課程表

2016年度入学者適用

区分	授業科目	開講	必修	選択	修了要件	学年配当			
						1年		2年	
						前期	後期	前期	後期
英語専攻科目	英語研究法	4	4		4	○	○		
	英語学特論	2		2	10	○			
	英語音声学特論	2		2			○		
	日英対照言語学	4		4		○	○		
	アメリカ文学特論	2		2			○		
	イギリス文学特論	2		2			○		
	語用論と外国語学習	2		2			○		
	Advanced Reading I	2	2		8	○	○		
	Advanced Reading II	2	2					○	○
	Writing & Presentation I	2	2			○	○		
	Writing & Presentation II	2	2					○	○
	Advanced English Practicum I	2	2		8	○			
	Advanced English Practicum II	2	2				○		
	Advanced English Practicum III	2	2					○	
	Advanced English Practicum IV	2	2						○
	英語特別実習	6		6	10			○	○
	海外英語研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	英語特別研究 I	4	4			○	○		
	英語特別研究 II	6	6					○	○
英語関連科目	ジェンダー研究特論	2		2	4		○		
	国際関係特論	4		4				○	○
	地域研究特論 I	2		2		○			
	地域研究特論 II	2		2		○			
	地域研究特論 III	2		2			○		
	地域研究特論 IV	2		2				○	
	地域研究特論 V	2		2				○	
	応用言語学	2		2		○			
	教育方法特論	2		2			○		
	初等英語教育特論	2		2		○			
	初等英語教材研究特論	2		2					○
	日本文学特論	2		2		○			
	日本史特論	2		2		○			
	国際ボランティア論	2		2		○			
	NGO・NPO論	2		2			○		
	インターンシップ S	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	インターンシップ L	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	海外ボランティア・インターンシップ S	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	海外ボランティア・インターンシップ L	2		2		○	(○)	(○)	(○)
総計単位数		90	30	60	44				

専攻科保育専攻

専攻科保育専攻のカリキュラム

学位授与機構認定専攻科として、保育者養成の今日的課題である保育サービスの多様化と高度化に対応し、教育学士の学位及び幼稚園教諭1種免許状・オーストラリア保育士資格（CertificateⅢ）の取得ができるよう配慮しつつ、時代の要請に応えるカリキュラムとして、次のような特色を持たせています。

① 自律的研究心の育成

時代の変化に対応して、保育者は不断に学習していく資質が求められています。そして自らの努力で、主体的に保育者としての力量を開発していくことが望まれます。本学のカリキュラムは、こうした1人ひとりの主体的な学習や研究を援助しうよう構造化がはかられています。少人数教育や演習科目の比重を高め、「保育研究法Ⅰ、Ⅱ」をはじめ「保育特別実習」「保育特別研究Ⅰ、Ⅱ」などの科目を有機的に関連づけて配置したことからもそのことは具体化されています。

② 理論と実践の統一

「保育学」は、極めて実践的な学問であり、保育現場で実際に行われている様々な実践から多くのことを学ばなければなりません。その意味で、ほぼ1年間を通して展開される「保育特別実習」は本学専攻科固有の特色ある授業科目といえます。さらに「保育研究法Ⅰ、Ⅱ」や専攻科のそれぞれの授業科目において、学生が実習で得た様々な経験を対象化して、それを多面的に検討するなかで保育の学習はさらに深まっていきます。加えて「子育て相談室」の諸活動に関わることで理論を実践に結びつける経験を積むことができます。

③ 学習の深化と総合化の保障

「保育内容特演Ⅰ、Ⅱ」では保育の個々の課題について問題別、分野別により深く学ぶことが保障されています。「保育特別研究Ⅰ、Ⅱ」は、学生の問題意識、関心に則して、専攻科での学習を総合化することが課題とされ、担当教員による個別的な指導を系統的に受けることが出来ます。

④ 保育分野における今日的課題への対応

「子育て支援論」、「特別保育論Ⅰ、Ⅱ」や「発達心理学特論」などの保育の今日的課題に応える科目を開講しています。これは、保育や子ども達を取り巻く社会的環境が大きく変わろうとしている現在の保育情勢にいち早く対応し、将来の保育に対する認識を深めるためのものです。

⑤ 教育学士と幼稚園教諭1種免許状・オーストラリア保育士資格の取得

専攻科のカリキュラムでは、1年次に集中的に授業科目を配置し、2年次には「保育特別研究Ⅱ」への専念と、学位授与機構から教育学士の学位授与を得るために必要な授業科目について、履修が可能となるように授業科目の学年配当に十分な配慮がされています。また、オーストラリアにおける留学タイプにおいてはオーストラリアの保育士免許（CertificateⅢ）の取得もでき国際的な保育士の養成を目指しています。

保 育 科 教 育 課 程 表

2015年度・2016年度入学者適用

区分		授業科目	開講	必修	選択	卒業要件 単位数	学年配当				卒業要件 単位数	学年配当						
							1年		2年			1年		2年				
							前	後	前	後		前	後	前	後			
基礎 教育 科目	外国語	英語	1		1	10 (※1)	○				3科目 6単位				○			
		保育の英語	1		1			○					○					
		フランス語Ⅰ	1		1		○								○			
		フランス語Ⅱ	1		1			○					○					
		スペイン語Ⅰ	1		1		○							○				
		スペイン語Ⅱ	1		1			○						○				
		中国語Ⅰ	1		1		○							○	○			
		中国語Ⅱ	1		1			○						○				
		情報処理	パソコン演習Ⅰ	2			2	○	○							○		
			パソコン演習Ⅱ	1			1		○							○		
	スポーツ		スポーツ	1			1	●	●							○		
		スポーツ・健康論	2		2		○							○				
		特別文化	心理学	2			2	○									○	
	日本国憲法		2		2			○								○		
	異文化研究		2		2		○							○				
	他学科開放指定科目(※2)		6		6		○	(○)	(○)	(○)					○			
小計			26		26	10					4(※3)	53						
専門 教育 科目	社会福祉 児童家庭福祉 相談援助 保育者論 教育原理 教育関係法規 保育原理 社会的養護 社会的養護内容 発達心理学 教育心理学 保育カウンセリング 子どもの食と栄養 子どもの心とからだⅠ 子どもの心とからだⅡ 子どもの心とからだⅢ	社会福祉	2		2	2		○					○	○				
		児童家庭福祉	2		2		○								○			
		相談援助	2		2							○	○					
		保育者論	2		2	○								○	○			
		教育原理	2	2		2			○						○			
		教育関係法規	2		2							○						
		保育原理	2	2		2	○									○		
		社会的養護	2		2		○						○					
		社会的養護内容	2		2			○						○				
		発達心理学	2		2	2	○							○				
		教育心理学	2		2			○							○			
		保育カウンセリング	2		2							○			○			
		子どもの食と栄養	2	2		2				○		○				○	○	
		子どもの心とからだⅠ	2		2		○							○	○			
		子どもの心とからだⅡ	2		2			○							○	○		
子どもの心とからだⅢ	2		2				○								○			
小計			96	13	81	53												
総計単位数			122	13	107	63												

※1 外国語のⅡを履修する場合はその科目のⅠを選択する。

※2 他学科開放指定科目は、6単位を限度として英語コミュニケーション学科、現代教養学科が指定する授業科目の修得単位を基礎教育科目の卒業要件にできる。

※3 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲでの卒業要件4単位の充足はできない。

1. 未来の保育者になるために

保育者は未来を生きる子どもたちを育てるという、とても大きな社会的使命を担っています。では、保育者になるために、皆さんは何を学ぶことが必要なのでしょうか。

一言で言ってしまえば、それは「皆さんを人間として成長させるための、ありとあらゆること」になります。より良い保育者となるには、単に保育の技術だけ修めればよいということにはなりません。子どもの成長を導き、その可能性を開かせるためには、豊かな知識や感性、技術などを用い、様々な面からアプローチすることが必要です。

したがって、皆さん自身が、人間として豊かに成長し続けること——それこそが、この名古屋短期大学保育科で成し遂げてもらいたい大きな目標です。保育科のカリキュラムはこの目標達成に向かって構成されています。では、具体的にどのようなカリキュラムになっているのでしょうか。

2. 保育科カリキュラムの構造

名古屋短期大学保育科のカリキュラムは、2年間を通して上記の目標を達成しつつ、保育士資格と幼稚園教諭2種免許状を取得することができるように構成されています。カリキュラム内の科目は、大きく「基礎教育科目」と「専門教育科目」に分かれています（保育科教育課程表を参照してください）。

またそれぞれの科目は7つの分野に分類され、皆さんの総合的な成長のための学習を体系的に提供しています。以下、7つの分野について、それぞれ見ていきましょう（履修系統図（カリキュラムツリー）も参照してください）。

（1）外国語、情報処理、スポーツ、心理、文化等の科目

日々変化している現代社会に対する理解を深めるとともに、そのような社会で必要となる基礎的な事柄について学ぶことを目標にした科目です。

外国語をはじめ、多彩なジャンルの科目を設定しています。保育の専門的な学習と合わせて、豊かな人間性を形成するためにどれも重要な科目です。上述した「基礎教育科目」がこれに該当します。

（2）原理、福祉系の科目

保育者は子どもの「教育」や「福祉」を担う存在です。人が人として学び、成長していくために重要なこれらの意義や役割、現代における制度などを学んでいく科目です。

（3）心理、保健、栄養系の科目

子どもは日常生活や教育・保育活動などを通じて成長していきます。子どもが人として生きるための諸能力を獲得する過程、発達の手道やそのために必要な事柄などについて幅広く学んでいく科目です。

(4) 保育内容系の科目

保育においては、子どもの活動が大きな意味を持っています。子どもの活動は発達の源です。子どもたちのどのような活動を、どのように引き出し、援助していけばよいでしょうか。保育内容系の科目ではこのような点を学習していきます。

(5) 音楽、図画工作、体育系の科目

保育の技術を支える基礎的な技能を磨き、感性を高めるための科目です。実際に音楽を奏で、作品を制作し、身体を動かすなどの活動を通して実践的に学んでいきます。

(6) 保育、教育実習

ここまでみてきた大学内での講義や演習に加え、保育者になるためには現場での実践を通して学ぶことが重要です。子どもの姿や現場の保育者から豊かな問題意識を吸収するだけでなく、自らの課題についても積極的に探求し、更なる学習へと繋げていきましょう。

(7) ゼミナール

保育は一人で行うものではありません。同僚や保護者など多くの人々と協働して子どもを育てていく営みです。このゼミナールという科目を通し、集団的な研究学習活動を実施し、仲間と共に学び合う関係と能力を培っていきます。

(8) その他

大学生活では、皆さん自身で作り上げていくものです。授業科目ではありませんが、大学祭をはじめとする様々な行事や活動は、すべての学生の自主的・主体的な活動として展開されています。このような活動は、学生相互の学習や、仲間との関係性、自らの人間性の開発を促してくれるものです。

保育科では皆さんがこれらの活動に十分取り組めるよう、カリキュラム上必要な配慮を行っていますので、積極的に参加して充実した学生生活を送ってください。

3. 履修にあたっての留意点

保育科のカリキュラムは、保育士資格と幼稚園教諭2種免許状を取得できるように構成されています。資格や免許の取得には所定の科目を履修して単位を修得することが必要になります。授業の履修にあたっては「卒業に必要な単位」「保育士資格取得に必要な単位」「幼稚園教諭2種免許状取得に必要な単位」に注意することが必要です。

大学での学習に対する評価は絶対評価が基本です。皆さん自身が努力をすれば必ずそれにふさわしい評価が得られます。ただし、評価だけにとらわれるのではなく、何のために学ぶのかということを常に意識しながら学習活動を行うようにしてください。それは自らを成長させ、将来の進路選択にもつながっていくはずです。

本当の勉強は大学から始まります。大学では、何にどれくらい時間を費やすのかを皆さん自身の意思で決定することができます。常に瑞々しい心で、自らの可能性にチャレンジしましょう。それはきっと皆さんを更に成長させてくれるはずです。

名古屋短期大学 保育科 履修系統図

科目表記の見方:「科目名」(「履修配当学年・時期」・「単位数」・「該当する免許・資格」・「必修であるか否か」)

■変化しつつある現代社会について理解を深めると共に、学ぶことの意義や課題、学ぶ方法、豊かな人間性を開発するための基礎的事項について学んでいきます。

英語(1年前期・1・幼保)	保育の英語(1年後期・1・幼保)
フランス語Ⅰ(1年前期・1・幼保)	フランス語Ⅱ(1年後期・1・幼保)
スペイン語Ⅰ(1年前期・1・幼保)	スペイン語Ⅱ(1年後期・1・幼保)
中国語Ⅰ(1年前期・1・幼保)	中国語Ⅱ(1年後期・1・幼保)
パソコン演習(1年前期・2・幼保)	パソコン演習Ⅱ(1年後期・1・保)
スポーツ(1年前期・1・幼保)	スポーツ・健康論(1年前期・2・幼保)
異文化研究(1年前期・2・保)	心理学(1年前期・2・保)
日本国憲法(1年後期・2・幼保)	

■発達の源泉となる子どもの活動を、どのように引き出し、援助していったらよいのかを、多彩な保育内容系の科目を通じて学習していきます。

保育内容総論(1年後期・2・幼保・必)	乳児保育(1年後期・2・保)
保育課程論(2年前期・2・保)	幼児教育指導法(2年前期・2・幼保)
保育内容指導法「生活と人間関係」(1年後期・2・幼保)	保育内容指導法「生活と表現」(2年通年・2・幼保)
保育内容指導法「生活と環境」(2年後前期2・幼保)	保育内容指導法「生活と言葉」(2年前期・2・幼保)
保育内容指導法「生活と健康」(2年後期・2・幼保)	児童文化(2年後期・2)
保育現場とポルトガル語(1年後期・2)	海外の保育と英語(2年後期・2・保)

■実践を通しての学びは保育を学ぶ上で不可欠です。生きた現実から豊かな問題意識を吸収し、主体的な学習の原動力とするために、2年間で合計4回の教育・保育実習を実施します。

保育実習Ⅰ(事前・事後指導)(1年前期・2・保)
保育実習(児童福祉施設)(1年後期・2・保)
保育実習Ⅱ(事前・事後指導)(1年後期・1・保)
保育実習Ⅱ(2年前期・2・保)
保育実習(保育所)(2年前期・2・保)
教育実習(事前・事後指導)(1年後期・1・幼)
教育実習Ⅰ(1年通年・1・幼・必)
教育実習Ⅱ(2年後期・3・幼)
保育・教育実践演習(2年後期・2・幼・必)

■保育者に必要とされる教育や福祉の根本的意義や役割の理解、またその制度についての学習を深める科目です。

保育原理(1年前期・2・保・必)
保育者論(1年前期・2・幼保)
教育原理(2年前期・2・幼保・必)
教育関係法規(2年後期・2・幼・必)
社会的養護(1年前期・2・保)
児童家庭福祉(1年前期・2・保)
社会福祉(1年後期・2・保)
社会的養護内容(1年後期・2・保)
家庭支援論(2年前期・2・保)
相談援助(2年後期・2・保)

■子どもは、生活と教育を通して人間としての諸能力を獲得していきます。この分野の科目を通じ、子どもの発達のすじみちや課題について学習していきます。

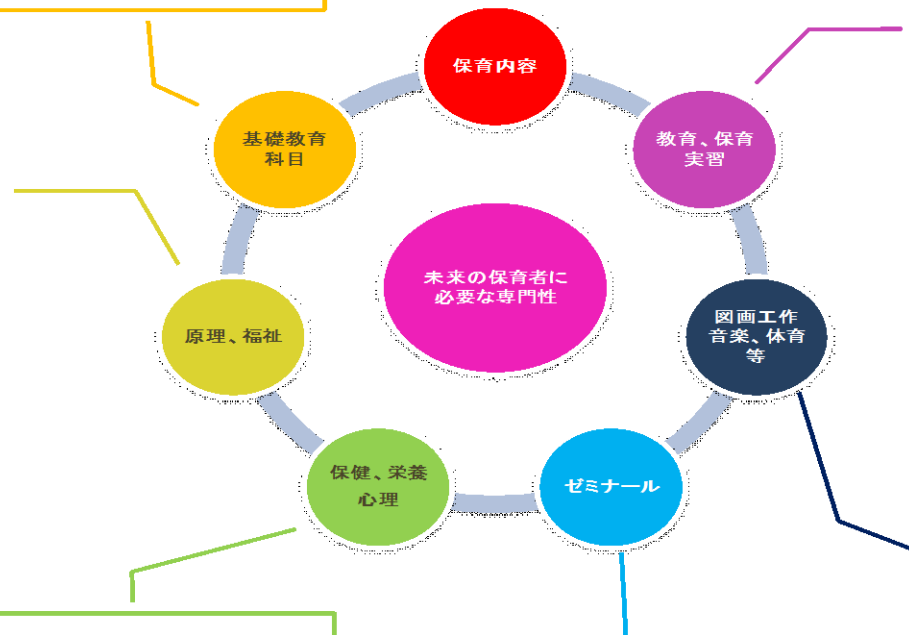
子どもの心とからだⅠ(1年前期・2・保)	子どもの心とからだⅡ(1年後期・2・保)
子どもの心とからだⅢ(2年前期・2・保)	子どもの食と栄養(2年通年・2・保・必)
発達心理学(1年前期・2・保)	教育心理学(1年後期・2・幼保)
障害児保育(2年前期・2・保)	保育カウンセリング(2年後期・2・幼保)

■保育に必要な共同活動を通じて、現代社会における保育の課題を多面的、総合的に学んでいきます。

保育基礎演習(1年通年・必・2・保)
保育実践演習(2年通年・必・2・保)

■保育の技術を支える基礎的な技能についての習熟を目指し、実技を中心に授業が展開されていきます。

国語(1年前期・2・幼保)
算数(1年後期・2)
図画工作(1年通年・2・幼保)
音楽Ⅰ(ピアノ・楽典)(1年通年・2・幼保)
音楽Ⅱ(弾き歌い)(2年前期・2・幼保)
音楽Ⅲ(弾き歌い・声楽)(2年後期・2・幼保)
体育(2年通年・2・幼保)



英語コミュニケーション学科教育課程表

2015年度入学者適用

区分		授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	卒業 要件	学 年 配 当						
							1 年		2 年				
							前期	後期	前期	後期			
基礎 教育 科目	外国語	フランス語Ⅰ	1		1	注 2	○						
		フランス語Ⅱ	1		1			○					
		スペイン語Ⅰ	1		1			○					
		スペイン語Ⅱ	1		1			○					
		中国語Ⅰ	1		1			○					
		中国語Ⅱ	1		1				○				
		韓国語Ⅰ	1		1			○					
		韓国語Ⅱ	1		1				○				
	情報 処理	パソコン演習Ⅰ	1	1		10	○						
		パソコン演習Ⅱ	1	1				○					
	スポーツ と 健康	スポーツⅠ	1		1		○						
		スポーツⅡ	1		1			○					
		スポーツ・健康論	2		2			○					
	一 般	日本語表現Ⅰ	2	2			○						
		日本語表現Ⅱ	2	2				○					
		日本国憲法	2		2		○						
		他学科開放指定科目	6		6		○	(○)	(○)	(○)			
	小 計		26	6	20	10							
	専 門 教 育 科 目	英語 教育	English In ActionⅠ	2	2		2	○	○				
English In ActionⅡ			2	2		2		○	○				
Intensive EnglishⅠ			1	1		1	○						
Intensive EnglishⅡ			1	1		1	○						
Intensive EnglishⅢ			1	1		1	○						
Intensive EnglishⅣ			1	1		1		○					
Intensive EnglishⅤ			1	1		1		○					
Intensive EnglishⅥ			1	1		1		○					
Advanced EnglishⅠ			1	1		1			○				
Advanced EnglishⅡ			1	1		1			○				
Advanced EnglishⅢ			1	1		1			○				
Advanced EnglishⅣ			1	1		1			○				
Advanced EnglishⅤ			1	1		1				○			
Advanced EnglishⅥ			1	1		1				○			
Advanced EnglishⅦ			1	1		1				○			
Advanced EnglishⅧ			1	1		1				○			
英語専門演習			2	2		2			○	○			
卒業研究			1	1		1					○		
異文化 教育			異文化研究Ⅰ	2	2		2	○					
		異文化研究Ⅱ	2		2	35		○					
		英語学Ⅰ	2		2			○					
		英語学Ⅱ	2		2				○				
		英語音声学Ⅰ	2		2					○			
		英語音声学Ⅱ	2		2						○		
		外国語教育論	2		2		○						
		日英語比較Ⅰ	2		2				○				
		日英語比較Ⅱ	2		2					○			
		早期英語教育法	2		2					○			
		早期英語教材研究	2		2						○		
		国際関係論Ⅰ	2		2					○			
		専 門 教 育 科 目	国際 関係 論	国際関係論Ⅱ	2			2	35				○
				地域研究Ⅰ	2			2			○		
地域研究Ⅱ				2			2					○	
地域研究Ⅲ	2				2					○			
地域研究Ⅳ	2				2						○		
地域研究Ⅴ	2				2						○		
アメリカ文学	2				2					○			
イギリス文学	2				2					○			
外国の文学	2				2						○		
国際社会と女性	2				2		○						
コミュニケーション論Ⅰ	2				2					○			
コミュニケーション論Ⅱ	2				2						○		
情報コミュニケーション	2				2		○						
ツーリズム概論	2				2					○			
国際経済論	2				2						○		
専 門 教 育 科 目	国際 関係 論	観光と地理	2		2			○					
		女性と労働	2		2				○				
		Communication SkillsⅠ	2		2		○						
		Communication SkillsⅡ	2		2			○					
		Communication SkillsⅢ	2		2	2			○				
		Communication SkillsⅣ	2		2				○				
		Communication SkillsⅤ	2		2	2				○			
		Communication SkillsⅥ	2		2					○			
		海外英語実習Ⅰ	4		4			○					
		海外英語実習Ⅱ	2		2		○	(○)	(○)	(○)			
		語学留学実習 ※	15	(5)	10			○					
		秘書概論	2		2		○						
		事務管理	2		2			○					
		秘書実務	2		2				○	○			
		職業教養講座	6		6		○	(○)	(○)	(○)			
インターンシップS	1		1		○	(○)							
インターンシップL	2		2		○	(○)							
ライフデザイン	1		1			○							
小 計		128	23	100	58								
専 門 教 育 科 目	国際 関係 論	教職論	2	2		35	○						
		教育心理学	2	2			○						
		教育原理	2	2				○					
		教育関係法規	2	2					○				
		臨床心理学B	2	2				○					
		英語科教育法	2	2				○					
		道德教育の研究	2	2			○						
		特別活動の研究	2	2							○		
		生徒指導論	2	2				○					
		教育実習	4	4						●	●		
		教育実習(事前・事後指導)	1	1					●		●		
		教職実践演習(中学校)	2	2							○		
		小 計		25	25								
		総 計 単 位 数		179	54		120	68					

注は、同一外国語（ⅠとⅡ）の2単位を修得すること。

※は、語学留学実習の修得で専門教育科目「English In Action II」「Intensive English IV・V・VI」の必修5単位と選択10単位を修得したこととする。

他学科開放指定科目は、保育科・現代教養学科が指定する授業科目の修得単位を6単位まで

英語コミュニケーション学科教育課程表

2016年度入学者適用

区分	授 業 科 目	開講	必修	選択	卒業要件	学 年 配 当				
						1 年		2 年		
						前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	外国語	フランス語Ⅰ	1		1	注2	○			
		フランス語Ⅱ	1		1			○		
		スペイン語Ⅰ	1		1			○		
		スペイン語Ⅱ	1		1				○	
		中国語Ⅰ	1		1			○		
		中国語Ⅱ	1		1				○	
		韓国語Ⅰ	1		1			○		
		韓国語Ⅱ	1		1				○	
	情報処理	パソコン演習Ⅰ	1	1		10	○			
		パソコン演習Ⅱ	1	1				○		
	スポーツと健康	スポーツⅠ	1		1		○			
		スポーツⅡ	1		1			○		
		スポーツ・健康論	2		2			○		
	一般	日本語表現Ⅰ	2	2			○			
		日本語表現Ⅱ	2	2				○		
		日本国憲法	2		2		○			
		他学科開放指定科目	6		6		○	(○)	(○)	(○)
小 計		26	6	20	10					
専門教育科目	English In ActionⅠ	2	2		2	○○				
	English In ActionⅡ	2	2		2		○○			
	Intensive EnglishⅠ	1	1		1	○				
	Intensive EnglishⅡ	1	1		1	○				
	Intensive EnglishⅢ	1	1		1	○				
	Intensive EnglishⅣ	1	1		1		○			
	Intensive EnglishⅤ	1	1		1		○			
	Intensive EnglishⅥ	1	1		1		○			
	Advanced EnglishⅠ	1	1		1			○		
	Advanced EnglishⅡ	1	1		1			○		
	Advanced EnglishⅢ	1	1		1			○		
	Advanced EnglishⅣ	1	1		1			○		
	Advanced EnglishⅤ	1	1		1				○	
	Advanced EnglishⅥ	1	1		1				○	
	Advanced EnglishⅦ	1	1		1				○	
	Advanced EnglishⅧ	1	1		1				○	
	英語専門演習	2	2		2			○	○	
	卒業研究	1	1		1				○	
	異文化研究Ⅰ	2	2		2	○				
		異文化研究Ⅱ	2		2			○		
	英語学Ⅰ	2		2			○			
		英語学Ⅱ	2		2				○	
	英語音声学Ⅰ	2		2				○		
		英語音声学Ⅱ	2		2					○
	外国語教育論	2		2		35	○			
		日英語比較Ⅰ	2		2				○	
	日英語比較Ⅱ	2		2						○
	早期英語教育法	2		2				○		
	早期英語教材研究	2		2						○
	国際関係論Ⅰ	2		2					○	
	国際関係論Ⅱ	2		2						○
小 計		26	6	20	10					
専門教育科目	地域研究Ⅰ	2		2	35				○	
	地域研究Ⅱ	2		2						○
	地域研究Ⅲ	2		2					○	
	地域研究Ⅳ	2		2						○
	地域研究Ⅴ	2		2						○
	アメリカ文学	2		2					○	
	イギリス文学	2		2					○	
	外国の文学	2		2						○
	国際社会と女性	2		2			○			
	コミュニケーション論Ⅰ	2		2					○	
	コミュニケーション論Ⅱ	2		2						○
	情報コミュニケーション	2		2			○			
	ツーリズム概論	2		2					○	
	国際経済論	2		2						○
	観光と地理	2		2				○		
	女性と労働	2		2					○	
	Communication SkillsⅠ	2		2			○			
	Communication SkillsⅡ	2		2				○		
	Communication SkillsⅢ	2		2		2			○	
	Communication SkillsⅣ	2		2					○	
	Communication SkillsⅤ	2		2		2				○
	Communication SkillsⅥ	2		2						○
	海外英語実習Ⅰ	4		4				○		
	海外英語実習Ⅱ	2		2			○	(○)	(○)	(○)
	語学留学実習 ※	15	(5)	10				○		
	秘書概論	2		2			○			
	事務管理	2		2				○		
	秘書実務	2		2					○	○
	職業教養講座	6		6			○	(○)	(○)	(○)
	インターンシップS	1		1			○	(○)		
	インターンシップL	2		2			○	(○)		
	ライフデザイン	1		1				○		
	海外ボランティア・インターンシップS	1		1			○	(○)	(○)	(○)
	海外ボランティア・インターンシップL	2		2			○	(○)	(○)	(○)
	小 計		131	23		103	58			
専門教育科目	教職論	2	2		35	○				
	教育心理学	2	2			○				
	教育原理	2	2				○			
	教育関係法規	2	2					○		
	臨床心理学B	2	2				○			
	英語科教育法	2	2				○			
	道德教育の研究	2	2			○				
	特別活動の研究	2	2						○	
	生徒指導論	2	2				○			
	教育実習	4	4					●	●	
	教育実習(事前・事後指導)	1	1					●	●	
	教職実践演習(中学校)	2	2						○	
	小 計		25	25						
総 計 単 位 数		182	54	123	68					

注は、同一外国語（ⅠとⅡ）の2単位を修得すること。
※は、語学留学実習の修得で専門教育科目「English In ActionⅡ」「Intensive EnglishⅣ・Ⅴ・Ⅵ」の必修5単位と選択10単位を修得したこととする。
他学科開放指定科目は、保育科・現代教養学科が指定する授業科目の修得単位を6単位まで基礎教育科目の卒業要件にできる。(61科目117単位を指定)（2012年11月21日教授会承認）

英語コミュニケーション学科教育課程

人々は言語を使って行動します。最も基本的には、ものを考え、それを基に自分の考えを他人に伝えたり、他人が発した考えを受容したりというコミュニケーション活動を行います。そして、人はコミュニケーション活動を通して、文化的、政治的、経済的な種々の社会活動を行っています。近年、そのような活動はインターネットなどのデジタルコミュニケーションの発達で、国の枠を越えた形になってきています。そして社会の動きの変化は昔と比べものにならないほど速くなってきています。英語コミュニケーション学科で学ぶということは外国語である英語に加えて、文化、政治、経済などを日本という枠を越えて学ぶことにほかなりません。これらを踏まえ、本学科では、英語によるコミュニケーション能力を持ち、グローバル化した社会での様々な問題に適切に対応し、活躍していくことのできる人間を育成することを教育目標としています。

年々、多くの日本人が海外に出向き、その数は年間 1700 万人にも上っています。また、日本を訪れる外国人の数も 1300 万人を超え、異なる文化を持つ人々と接することは、今や一部の人に限られたことではなく、私たち誰もが体験する出来事になっています。そんな国際化の進む現代社会のニーズに対応する多様な授業科目が用意されています。

英語コミュニケーション学科教育課程概要

I. 基礎教育科目

- ① (英語以外の) 外国語
- ② 情報処理
- ③ スポーツと健康
- ④ 一般

II. 専門教育科目

A. 英語力強化のための演習・実習科目

- ⑤ 必修の英語演習科目
- ⑥ 選択／必修選択の英語演習科目
- ⑦ 海外英語実習
- ⑧ 語学留学実習

B. 幅広い教養を身につけるための専門科目

- ⑨ 専門演習
- ⑩ 英語の構造・学習・教育に詳しくなるための専門科目
- ⑪ 文学に詳しくなるための専門科目
- ⑫ 情報・コミュニケーションに詳しくなるための科目
- ⑬ 世界に詳しくなるための専門科目
- ⑭ 女性としてのキャリア形成を深める科目
- ⑮ 教員免許取得のための教職課程科目

I. 基礎教育科目

世界に通用する「コミュニケーション能力」を育むためには、英語の技能を向上させることに加えて英語以外の外国語の知識や日本語を正しく使う能力も大切です。また、現代社会には欠かすことのできないパソコン・スキルを養うことや、女性として健康的な生活を送るために必要な科目履修などを通して、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で大切な学習基礎力を高めます。

① (英語以外の) 外国語科目

スペイン語Ⅰ・Ⅱ (1年次選択必修)

フランス語Ⅰ・Ⅱ (1年次選択必修)

中国語Ⅰ・Ⅱ (1年次選択必修)

韓国語Ⅰ・Ⅱ (1年次選択必修)

英語以外の外国語を学ぶことは、単に「使える言語」の数を増やすことだけではなく、コミュニケーションの幅を広げ、母語や既習言語との比較から生まれる様々な発見にもつながります。選択必修科目ですので、上記4つから1言語を履修します。ⅠとⅡは、同一言語を選択します。

② 情報処理

パソコン演習Ⅰ・Ⅱ (1年次必修)

パソコン操作技術は、大学生として不可欠な大変重要なスキルです。大学の授業に必要な Microsoft Word を使ったレポート作成や PowerPoint の使い方、メールでの送受信方法やマナーなど、社会人としても役立つ実践的な学習内容です。

③ スポーツと健康

スポーツⅠ・Ⅱ (1年次選択)

スポーツ・健康論 (1年次選択)

女性として健康的な生活を送るために大切なスポーツと健康を学ぶ科目です。高校までの「体育」とは異なり、楽しみながら体を動かすことに重点を置いた「スポーツⅠ・Ⅱ」(テニス・卓球・エアロビクスなど)と、理論として学ぶ「スポーツ・健康論」があります。

④ 一般

日本語表現Ⅰ・Ⅱ (1年次必修)

日本国憲法 (1年次選択)

他学科開放指定科目 (1・2年次選択)

大学生活を送る上で必要不可欠な表現だけでなく就職活動に生かせる日本語表現能力も磨く「日本語表現Ⅰ／Ⅱ」や日本国を学ぶ「日本国憲法」は、国際人として活躍するための「コミュニケーション能力」習得に大変重要です。また、自分の興味関心に合わせて保育科と現代教養科の一部の科目(他学科開放指定科目のみ)を履修することも可能です。

Ⅱ. 専門教育科目

A. 英語力強化のための演習・実習科目

1年次、2年次とも毎日(週5日)「英語」の授業があり、効率よく英語コミュニケーション能力を高めることができます。また、英語圏で英語漬けの生活を送る海外実習も充実しています。

海外実習を除く全ての英語演習科目は、学期毎に受験する Placement Test の点数によるレベル別クラス(一部進路別クラス)となります。レベルは全部で8つ(4A>4B>3A>3B>2A>2B>1A>1B)あります。学期毎のレベルアップを目標に英語力強化に励みます。

⑤ 必修の英語演習科目

English in Action I・II（1年次）

Intensive English I・II・III・IV・V・VI（1年次）

Advanced English I・II・III・IV・V・VI・VII・VIII（2年次）

英語コミュニケーション能力の総合的な向上のために「話す」「書く」「聴く」「読む」の語学の4技能を関連させながら、1年次から2年次へと発展的に、効果的に学習します。1年次の English in Action I/II（週2回）は専任教員が指導に当たり、Intensive English と Advanced English は主に外国人講師が担当し、生きた英語に触れていきます。なお、Intensive English と Advanced English は複数科目がありどれも4技能を総合的に伸ばすための科目ですが、各科目は以下の各技能を重点的に学びます。

Intensive English / Advanced English の重点学習技能内訳表

	Speaking	Writing	Listening	Reading
1年(前)	Intensive English I	Intensive English II		Intensive English III
1年(後)	Intensive English IV	Intensive English V		Intensive English VI
2年(前)	Advanced English IV	Advanced English I	Advanced English II	Advanced English III
2年(後)	Advanced English VIII	Advanced English V	Advanced English VI	Advanced English VII

* English in Action のクラスが、1年次の所属クラスになります。担当教員も履修学生も原則として一年間変わりません。

⑥ 選択／必修選択の英語演習科目

Communication Skills I・II（1年次選択）

Communication Skills III・IV（2年次選択必修）

Communication Skills V・VI（2年次選択必修）

⑤に示した必修の英語演習科目に加えて、更なる英語力アップを目指すために、多様な選択科目が用意されています。

英文法を再整理するための「基礎英文法クラス」、自分の英語力を公に証明する検定試験準備のための「TOEIC 対策クラス」や「英検対策クラス」、映画を教材にした「Screen English クラス」、コンピュータを活用しながら学ぶ「CALL クラス」などがあります。

⑦ 海外英語実習

海外英語実習 I（1年次選択）

春休み期間中に海外の大学でホームステイしながら4週間の英語研修を受講し、外国文化に直接触れながら集中的な英語力向上と異文化理解を目指す科目が「海外英語実習 I」です。名古屋短期大学専用クラスコースと、他国の学生と机を並べながら学ぶ国際クラスコースがあり、学生はプログラム内容及び研修国を選択できます。これまでに、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの四カ国にて実施してきた実績があります（※国際状況の変化及び参加希望者の増減などによって実施国は変更されます）。

「海外英語実習 I」参加学生は全員、1年次後期に事前準備クラスを履修し、それぞれの研修先に応じた海外実習の準備を開始します。学生は研修毎に同一旅程で行動しますが、一学生一家庭でのホームステイを4週間経験します。

* 個人で申し込んだ4週間以上の海外英語研修プログラムを、教育内容や取得成績等が適切であると判断された場合に限り2単位を認定する「海外英語実習 II」もあります。

⑧ 語学留学実習

語学留学実習（本実習参加学生のみ1年次必修）

約4ヶ月間の海外留学プログラムで、所定の審査に合格した学生のみが履修できます。

1年次の8月末から12月初めまでの約4ヶ月間はアメリカフロリダ州セントラルフロリダ大学／セミノール・ステイト・カレッジで行われる英語クラスを履修し、全科目を修得すること、留学期間中に実施されるホームステイ等の行事に参加することや担当教員が課す全ての課題に合格することに加えて、名短にて行われる事前・事後指導を履修することによって15単位が認定されます。

10月から開講される1年後期の名短での科目を履修することができないため、必修の「日本語表現Ⅱ」「パソコン演習Ⅱ」、選択科目の「地域研究Ⅰ（アメリカ）」は、集中講義の形態で帰国後に履修します。

B. 幅広い教養を身につけるための専門科目

国際社会で活躍するために必要な知識と教養を学ぶことができるのが専門科目です。自由に履修科目を選択できます。大きく分けて次の七つの科目群に分類されています。

⑨ 専門演習

⑩ 英語の構造・学習・教育に詳しくなるための専門科目

⑪ 文学に詳しくなるための専門科目

⑫ 情報・コミュニケーションに詳しくなるための科目

⑬ 世界に詳しくなるための専門科目

⑭ 女性としてのキャリア形成を深める科目

⑮ 教員免許取得のための教職課程科目

⑨ 専門演習

英語専門演習（2年次必修）／卒業研究（2年次必修）

「英語専門演習（通称：ゼミ）」は2年次の必修科目で、この「ゼミ」クラスが各学生の「所属クラス」となります。この「ゼミ」は各教員の専門に基づいた内容（例：英語学、異文化研究、国際関係、アメリカ研究等）の授業が行われ、学生は各教員のテーマの中から自分の希望するものを選択し、履修します。この「ゼミ」は通年科目ですので、1年を通して卒業研究や卒業制作に向けての指導を受けます。また、担当教員は各ゼミ学生の卒業後の進路の相談なども担当します。

後期に設定された「卒業研究」は、卒業論文等ゼミ活動の成果をまとめることを目的とした授業です。

⑩ 英語の構造・学習・教育に詳しくなるための専門科目

英語学Ⅰ（1年次選択）

英語学Ⅱ（2年次選択）

英語音声学Ⅰ・Ⅱ（2年次選択）

日英語比較Ⅰ・Ⅱ（2年次選択）

外国語教育論（1年次選択）

早期英語教育法（2年次選択）

早期英語教材研究（2年次選択）

英語の仕組みを探ることや教える側の視点で英語を捉えることは、より深い英語学習を育み、効率のよい英語学習方法の習得に繋がります。

⑪ 文学に詳しくなるための専門科目

アメリカ文学（２年次選択）
イギリス文学（２年次選択）
外国の文学（２年次選択）

英語を母語とする人々が何を考え、どう生きてきたか、そして今をどう生きているかを深めるのにぴったりののが、文学を学ぶ事です。作品の映画を視聴するなどして理解を深める授業もあります。

⑫ 情報・コミュニケーションに詳しくなるための科目

情報コミュニケーション（１年次選択）
コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（２年次選択）

情報化社会を生き抜くための知識、複雑化するコミュニケーションの世界を学習します。

⑬ 世界に詳しくなるための専門科目

異文化研究Ⅰ（１年次必修）
異文化研究Ⅱ（１年次選択）
地域研究Ⅰ（１年次選択）
地域研究Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（２年次選択）
国際関係論Ⅰ・Ⅱ（２年次選択）
国際経済論（２年次選択）
観光と地理（１年次選択）
ツーリズム概論（２年次選択）

異文化や国際社会についての理解を深めることを通じて、多様化する現代社会への適応力を高めるための科目です。興味や関心に合わせて選択できるよう、幅広い地域・領域の科目が用意されています。

⑭ 女性としてのキャリア形成を深める科目

国際社会と女性（１年次選択）
女性と労働（２年次選択）
ライフデザイン（１年次選択）
インターンシップ（１年次選択）
職業教養講座（１年次&２年次選択）
秘書概論（１年次選択）
事務管理（１年次選択）
秘書実務（２年次選択）

本学の学生が共通して持つ女性という視点から、現代日本において女性が雇用社会を生き抜く知恵を身につけるための多様な科目があります。人生設計や就職活動を考える科目「ライフデザイン」、就業体験を通して社会を学ぶ「インターンシップ」、グランドスタッフ講座をはじめとした様々な「職業教養講座」など、卒業後の実社会で役に立つ魅力ある科目がたくさんです。

⑮ 教員免許取得のための教職課程科目

１年次 教職論 教育心理学 教育原理 臨床心理学B 英語科教育法 道德教育の研究
生徒指導論
２年次 教育関係法規 特別活動の研究 教育実習 教育実習（事前・事後指導）
教職実践演習（中学校）

中学校教諭 2 種免許状外国語（英語）を取得するためには、英語コミュニケーション学科を卒業するために必要な科目に加えて、上記科目の履修・修得と、合計 7 日間の介護等体験を行う必要があります。教員免許の取得を希望する学生は、1 年前期から教職課程科目の履修を始める必要があります。

英語コミュニケーション学科の履修方法

本学の英語コミュニケーション学科は、前記の目的に従い各種の科目が設置されていますが、それぞれの科目の内容を理解し、自らの学習目標のもとに履修計画をたてて履修登録をする必要があります。

また、中学校教諭 2 種免許状外国語（英語）を取得するものは、「中学校教諭免許状取得」で述べるように教職課程科目を履修しなければなりません。

Academic advisor による履修支援及び大学生活相談支援制度

英語コミュニケーション学科にはアカデミック・アドバイザー制度があります。1 年生は English in Action I / II 及び語学留学実習の担当者が、2 年生は英語専門演習及び卒業研究の担当教員が、学生の履修に関する様々な支援／相談を担当するアカデミック・アドバイザーとなります。アカデミック・アドバイザーは、履修等に関することのみならず、学生生活における諸問題から就職や進学などに関する相談まで学生のサポートにあたります。

16年度英語コミュニケーション学科履修系統図 ◎:必修

□:教職必修

■:選択必修

▨:秘書士必修

A → B: Bの履修に先立って A を履修していなければならない／履修しておくことが望ましい

A B: 学習順序及び科目間の関連性が深いことを示す

A = B: 科目間の連携が深いことを示す

		1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
基礎 教育 科目	①外国語	■フランス語Ⅰ ■スペイン語Ⅰ ■中国語Ⅰ ■韓国語Ⅰ	■フランス語Ⅱ ■スペイン語Ⅱ ■中国語Ⅱ ■韓国語Ⅱ		
	②情報処理	◎パソコン演習Ⅰ	◎パソコン演習Ⅱ		
	③スポーツと健康	スポーツⅠ	スポーツⅡ スポーツ・健康論		
	④一般	◎日本語表現Ⅰ 日本国憲法 他学科開放科目	◎日本語表現Ⅱ (他学科開放科目)	(他学科開放科目)	(他学科開放科目)
専門 教育 科目	A 英語力強化のための演習・実習科目	⑤必修	◎English in ActionⅠ ◎Intensive EnglishⅠ ◎Intensive EnglishⅡ ◎Intensive EnglishⅢ	◎English in ActionⅡ ◎Intensive EnglishⅣ ◎Intensive EnglishⅤ ◎Intensive EnglishⅥ	◎Advanced EnglishⅡ ◎Advanced EnglishⅣ ◎Advanced EnglishⅠ ◎Advanced EnglishⅢ ◎Advanced EnglishⅥ ◎Advanced EnglishⅧ ◎Advanced EnglishⅤ ◎Advanced EnglishⅦ
		⑥選択／選択必修	Communication SkillsⅠ	Communication SkillsⅡ Communication SkillsⅢ Communication SkillsⅣ	Communication SkillsⅤ Communication SkillsⅥ
		⑦⑧海外実習	海外英語実習Ⅱ	◎語学留学実習 海外英語実習Ⅰ (海外英語実習Ⅱ)	(海外英語実習Ⅱ) (海外英語実習Ⅱ)
	B 幅広い教養を身につけるための専門科目	⑨専門演習		◎英語専門演習	◎卒業研究
		⑩英語の構造・学習・教育に詳しくなるための科目	外国語教育論	英語学Ⅰ 英語学Ⅱ 英語音声学Ⅰ 日英語比較Ⅰ 早期英語教育法	英語音声学Ⅱ 日英語比較Ⅰ 早期英語教材研究
		⑪文学に詳しくなるための専門科目		アメリカ文学 イギリス文学	外国の文学
		⑫情報・コミュニケーションに詳しくなるための科目	情報コミュニケーション	コミュニケーション論Ⅰ	コミュニケーション論Ⅱ
		◎異文化研究Ⅰ	異文化研究Ⅱ 地域研究Ⅰ	地域研究Ⅱ 地域研究Ⅲ 国際関係論Ⅰ	地域研究Ⅳ 地域研究Ⅴ 国際関係論Ⅱ 国際経済論
		観光と地理		ツーリズム概論	
		国際社会と女性 秘書概論 職業教養講座 インターンシップS インターンシップL 海外ボランティア・インターンシップS 海外ボランティア・インターンシップL	ライフデザイン 事務管理 (職業教養講座) (インターンシップS) (インターンシップL) (海外ボランティア・インターンシップS) (海外ボランティア・インターンシップL)	女性と労働 秘書実務 (職業教養講座)	(職業教養講座)
		⑭女性としてのキャリア形成を深める科目			
		⑮教員免許取得のための教職課程科目	教職論 教育心理学 道徳教育の研究	教育関係法規 教育実習 教育実習(事前・事後指導)	特別活動の研究 教育実習 教育実習(事前・事後指導) 教育実践演習

現代教養学科教育課程表

2015年度入学者適用

区分	領域	授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	卒業 要件 単位数	学 年 配 当			
							1年		2年	
							前期	後期	前期	後期
基礎教養科目群	共通	講義系								
		キャリアデザインⅠ	2	2	2		○	○		
		キャリアデザインⅡ	2	2	2				○	
		教養演習Ⅰ	2	2	2		○	○		
		教養演習Ⅱ	2	2	2				○	○
		日本語表現A	2	2	2		○			
		日本語表現B	2	2	2			○		
		コンピューター基礎演習	1	1	1		○			
専門教養科目群	心理	プレゼンテーション演習	1	1	1			○		
		卒業研究	2	2	2				○	○
		コミュニケーションの心理	2		2		○			
		カウンセリング入門	2		2			○		
		若者の心理	2		2				○	
		社会心理学	2		2					○
	人間文化	接客の心理	2		2		○			
		色彩学	2		2			○		
		自己の探求	2		2		○			
		社会とスポーツ	2		2		○			
		現代の文化	2		2			○		
		日本の文学	2		2				○	
	健康と福祉	芸術の世界	2		2	※				○
		スポーツ&エクササイズA	1		1	70	○			
		スポーツ&エクササイズB	1		1			○		
		ボランティア論	2		2		○			
		人間と健康	2		2			○		
		福祉スポーツ	2		2				○	
		現代の福祉	2		2					○
		ホームヘルパー実習	2		2		○			
	医療	NPOインターンシップ	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		生活と医療	2		2				○	
		いのちの科学	2		2					○
		医療実務	4		4		○	○		
	ビジネス	病院インターンシップS	1		1		○	(○)	(○)	(○)
		病院インターンシップL	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		社会と経済	2		2		○			
		現代の経営	2		2			○		
		マーケティング	2		2			○		
		女性と労働	2		2				○	
		企業と会計	2		2					○
		企業インターンシップS	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	キャリア	企業インターンシップL	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		ジェンダーと法	2		2		○			
		秘書概論	2		2		○			
		オフィススタディ	2		2			○		
		事務管理	2		2				○	
		生活経営	2		2					○
		秘書実務	2		2				○	○
		簿記	4		4		○	○		

区分	領域	授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	卒業 要件 単位数	学 年 配 当			
							1年		2年	
							前期	後期	前期	後期
専門教養科目群	情報処理	コンピューター・ネットワーク	2		2		○			
		ITパスポート入門	2		2			○		
		Excel演習	1		1			○		
		データベース演習	1		1				○	
		Excelプログラミング	1		1				○	
		応用Excelプログラミング	1		1					○
	アジア	韓国語と韓国文化Ⅰ	2		2		○	○		
		韓国語と韓国文化Ⅱ	2		2				○	○
		中国語と中国文化Ⅰ	2		2		○	○		
		中国語と中国文化Ⅱ	2		2				○	○
		アジアの歴史	2		2			○		
		アジアの社会と文化	2		2					○
	国際	国際経済論	2		2			○		
		国際社会と日本	2		2				○	
		地域文化研究	2		2				○	
		観光と地理	2		2					○
		ホテルインターンシップ	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	外国語	フランス語とフランス文化ⅠA	1		1		○			
		フランス語とフランス文化ⅠB	1		1			○		
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2		2				○	○
		英語と英米文化ⅠA	1		1		○			
		英語と英米文化ⅠB	1		1			○		
		英語と英米文化ⅡA	1		1				○	
		英語と英米文化ⅡB	1		1					○
		英会話ⅠA	1		1		○			
		英会話ⅠB	1		1			○		
		英会話ⅡA	1		1				○	
		英会話ⅡB	1		1					○
		英語能力認定	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	メディア表現	身体と表現	1		1		○			
		映像メディアの世界	2		2			○		
		ウェブ・コミュニケーション	2		2				○	
		ウェブデザイン	1		1				○	
		デジタル・デザイン	1		1					○
	食と環境	食の科学	2		2		○			
		自然と生活	2		2		○			
		環境の科学	2		2			○		
		フードデザイン	1		1				○	
エコライフ実習		1		1				○		
学外研修	国内研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)	
	海外研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)	
職 業 教 養 講 座			8		8		○	○	○	
他 学 科 開 放 指 定 科 目			6		6		○	○	○	
合 計			168	16	152	70				

※ 「ヒューマンケア」を選択する場合、

「心理」、「人間文化」、「健康と福祉」、「医療」の各領域から、それぞれ4単位以上を取得すること。

※ 「ビジネスマネジメント」を選択する場合、

「ビジネス」、「キャリア」、「情報処理」、「アジア」の各領域から、それぞれ4単位以上取得すること。

※ 「グローバルメディア」を選択する場合、

「国際」、「外国語」、「メディア表現」、「食と環境」の各領域から、それぞれ4単位以上取得すること。

※ 「マイブランチ」を選択する場合、

12の領域から4つを選択し、それぞれ4単位以上取得すること。

現代教養学科教育課程表

2016年度入学者適用

区分	領域	授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	卒業 要件 単位数	学 年 配 当			
							1年		2年	
							前期	後期	前期	後期
基礎 教養科目群	共通	講義系								
		キャリアデザインⅠ	2	2	2		○	○		
		キャリアデザインⅡ	2	2	2				○	
		教養演習Ⅰ	2	2	2		○	○		
		教養演習Ⅱ	2	2	2				○	○
		日本語表現A	2	2	2		○			
		日本語表現B	2	2	2			○		
		コンピューター基礎演習	1	1	1		○			
専門 教養科目群	心理	プレゼンテーション演習	1	1	1			○		
		卒業研究	2	2	2				○	○
		コミュニケーションの心理	2		2		○			
		若者の心理	2		2				○	
		社会心理学	2		2					○
	人間文化	接客の心理	2		2		○			
		色彩学	2		2			○		
		自己の探求	2		2		○			
		社会とスポーツ	2		2		○			
		現代の文化	2		2			○		
	健康と福祉	日本の文学	2		2				○	
		芸術の世界	2		2	※				○
		スポーツ&エクササイズA	1		1	70	○			
		スポーツ&エクササイズB	1		1			○		
		ボランティア論	2		2		○			
	医療	人間と健康	2		2			○		
		福祉スポーツ	2		2				○	
		現代の福祉	2		2					○
		ホームヘルパー実習	2		2		○			
		NPOインターンシップ	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	ビジネス	カウンセリング入門	2		2			○		
		生活と医療	2		2				○	
		いのちの科学	2		2					○
		医療実務	4		4		○	○		
		病院インターンシップS	1		1		○	(○)	(○)	(○)
	キャリア	病院インターンシップL	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		社会と経済	2		2		○			
		現代の経営	2		2			○		
		マーケティング	2		2			○		
		女性と労働	2		2				○	
	その他	企業と会計	2		2					○
		企業インターンシップS	1		1		○	(○)	(○)	(○)
		企業インターンシップL	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		ジェンダーと法	2		2		○			
		秘書概論	2		2		○			
	キャリア	オフィススタディ	2		2			○		
		事務管理	2		2				○	
		生活経営	2		2					○
		秘書実務	2		2				○	○
		簿記	4		4		○	○		

区分	領域	授 業 科 目	開 講	必 修	選 択	卒業 要件 単位数	学 年 配 当			
							1年		2年	
							前期	後期	前期	後期
専門 教養科目群	情報処理	講義系								
		コンピューター・ネットワーク	2		2		○			
		ITパスポート入門	2		2			○		
		EXCEL演習	1		1			○		
		データベース演習	1		1				○	
		Excelプログラミング	1		1				○	
		応用Excelプログラミング	1		1					○
	アジア	韓国語と韓国文化Ⅰ	2		2		○	○		
		韓国語と韓国文化Ⅱ	2		2				○	○
		中国語と中国文化Ⅰ	2		2		○	○		
		中国語と中国文化Ⅱ	2		2				○	○
		アジアの歴史	2		2			○		
	国際	アジアの社会と文化	2		2					○
		国際経済論	2		2			○		
		国際社会と日本	2		2				○	
		地域文化研究	2		2				○	
		観光と地理	2		2					○
	外国語	ホテルインターンシップ	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		フランス語とフランス文化ⅠA	1		1		○			
		フランス語とフランス文化ⅠB	1		1			○		
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2		2				○	○
		英語と英米文化ⅠA	1		1		○			
	メディア表現	英語と英米文化ⅠB	1		1			○		
		英語と英米文化ⅡA	1		1				○	
		英語と英米文化ⅡB	1		1					○
		英会話ⅠA	1		1		○			
		英会話ⅠB	1		1			○		
	食と環境	英会話ⅡA	1		1				○	
		英会話ⅡB	1		1					○
		英語能力認定	1		1		○	(○)	(○)	(○)
		身体と表現	1		1		○			
		映像メディアの世界	2		2			○		
	学外研修	ウェブ・コミュニケーション	2		2				○	
		ウェブデザイン	1		1				○	
		デジタル・デザイン	1		1					○
		食の科学	2		2		○			
		自然と生活	2		2		○			
	他学科開放指定科目	環境の科学	2		2			○		
		フードデザイン	1		1				○	
		エコライフ実習	1		1				○	
		国内研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)
		海外研修	2		2		○	(○)	(○)	(○)
	合計	職業教養講座	8		8		○	○	○	○
		他学科開放指定科目	6		6		○	○	○	○
		合 計	168	16	152	70				

※ 「ヒューマンケア」を選択する場合、

「心理」、「人間文化」、「健康と福祉」、「医療」の各領域から、それぞれ4単位以上を取得すること。

※ 「ビジネスマネジメント」を選択する場合、

「ビジネス」、「キャリア」、「情報処理」、「アジア」の各領域から、それぞれ4単位以上取得すること。

※ 「グローバルメディア」を選択する場合、

「国際」、「外国語」、「メディア表現」、「食と環境」の各領域から、それぞれ4単位以上取得すること。

※ 「マイプラン」を選択する場合、

12の領域から4つを選択し、それぞれ4単位以上取得すること。